

えがお

編集・発行

羽生市青少年育成推進員協議会

お問い合わせ

教育委員会生涯学習課

羽生市東6丁目15番地



羽生警察署長

大根 拓也

子は親の鏡

私が着任した時に署員に対して訓示した際に、ドロシー・ロー・ノルトという作家の「子どもが育つ魔法の言葉」という本の文章を引用して指示しました。その内容の一部ですが、

『とげとげとした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる 不安な気持ちで育つと、子どもも不安になる 叱りつけてばかりいると、子どもは

「自分を悪い子なんだ」と思う 励ましてあげれば、子どもは自信を持つようになる 愛してあげれば、子

どもは人を愛することを学ぶ 認めてあげれば、子どもは自分を好きになる 優しく、思いやりを持つて育てれば、子どもは優しい子に育つ 守ってあげれば、子どもは強い

子に育つ』
というもので、「和気あいあいとした家庭で育てば、子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる」と結ばれています。

ごく当たり前のことのように思えますが、当たり前のことをするということは、とても難しいことだと思います。子どもは親を見て育ちます。我々大人が、子どもに愛情を持つて接すれば、子ども達は自ずと明るく笑顔の絶えない大人に成長するのではないかと思います。

子ども達の健全育成のため、羽生市青少年育成推進員協議会の皆様やご家庭、学校関係者の皆様方には、引き続きご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

問題を定義して、課題を発見し解決する能力を高めることが、本当の意味で人間が成長することだと思います。

ではそのために、大人は何をするべきなのでしょう。それは、子どもたちに「知り、学び、考える」との面白さを気づかせることだと思います。物事に広く興味を持ち、考え続けるという姿勢を身に付けるため、子どもたちに多くの経験をさせ、失敗を重ねさせてほしいと思います。自分が常識と思っていることは必ずしも常識ではないことを、身をもって感じさせるために、多様な社会と触れ合う経験を繰り返させることが、子どもたちの成長につながります。失敗するかもしれない

常識を打ち破る経験を

羽生市長

河田 晃明



SNSの隆盛やAIの進化、混沌とする世界情勢を見るにつけ、予測が難しいこれからの時代を生きっていく子どもたちにとって、大事なことは能動的に動く姿勢だと思えます。能動的に動くとは、不確実な環境の中で工夫をし、試行錯誤を繰り返して、失敗を通して新たな発見をすることです。つまり、教養を深め、



結びに、羽生市青少年育成推進員協議会の益々のご発展と木村眞佐子代表をはじめとする会員の皆様、そして地域の皆様のご健勝を祈念申し上げます。

い子どもの選択を、受け入れる勇氣をもつことも大切だと思います。「かわいい子には旅をさせよ」です。家庭と地域、そして行政が一体となつて、子どもたちを励まし、見守ってまいりましょう。

「笑顔で【夢と希望を輝かせるために】」
羽生市校長会会長
川島 規行

『笑顔に勝る化粧なし』『笑う門には福来たる』『笑いは人の薬』など、笑顔にまつわることわざは、たくさんあります。このように、人々の笑顔は、それがあふただけで、人が集まってきたり、元気が湧いてきたりするなど、私たちの生活に欠かすことのできないものです。令和6年度も、市内の児童生徒には、様々なたくさんの笑顔が見られています。

人の笑顔には、何物にも代えがたい価値があると考えています。冒頭のことわざからもわかるように、周囲の人々を喜ばせたり、元気にしてくれたり、明るくしてくれたりします。例えば、赤ちゃんが笑ったときのことを思い出してみてください。ママや、パパはもちろん、誰もが満面の笑みを浮かべ、まだ話をする事ができない赤ちゃんに向かって、一生懸命に話しかけた経験をお持ちではないでしょうか。笑顔は、コミュニケーションの第一歩であると考えます。笑顔でお互いの気持ちを通わせることが可能になるように思います。また、人はポジティブに生きていくには、笑顔が必要不可欠と考えます。笑顔をやさず、前向きに笑っていくことで、自然と力が湧くように思います。

児童生徒たちがこれから、大人への階段を一步一步、歩み続けるにあたって、世界にたった一つしかない自分の「笑顔」を大切に、よりよい方向へ進むことができるよう、何事にも、チャレンジしていったほしいです。そして、児童生徒の笑顔を作り出す根底には、それぞれの家庭と地域の支えが重要です。

市の教育振興基本計画の基本理念「豊かな学びで夢と希望が輝く羽生の教育」のもと、今後も校長会として、微力ながら尽力させていただきます。

「それぞれの立場」

羽生警察署 生活安全課長

小林 紀夫

昨年、各会議、研修会において先生方、保護者の方の前でお話をさせていただく機会が多数ありました。その際に感じたことは、皆さんが子どもの安全・安心を守るために、それぞれの立場で色々と考え、悩みながら対応しているということでした。

私が部下署員に対して【相手の立場に立つて対応すること】を指示しています。「自分達にとっては当たり前のことでも、市民が警察を頼ることは特別なことである。相談者が自分の大切な人だと思って、しっかりと対応すること」を日頃から指示して、業務に取り組んでいます。

家庭や学校において子ども達と接して指導することは、時に難しいこともあるかと思いますが、「相手の立場に立つて対応すること」はどのような立場においても大切なことであり、子ども達を理解する上でも重要だと思っています。

子ども達の安全・安心を守るのは警察だけで出来ることはありません。引き続き警察に対するご理解・ご協力をお願いします。

令和6年9月 研修会



「個性」を尊重し、経験を通して「生きる力」を育てましょう！

令和6年9月 啓発活動



「自転車ヘルメットの着用について」

羽生警察署 交通課長

梶原 史和

令和5年4月1日より、全ての自転車乗用者に対してヘルメット着用が義務付けられてから、間もなく2年が経過します。警察庁が自転車ヘルメット着用率を調査した結果によりますと、昨年より着用率は向上したものの、全国平均17%と未だ低い水準に留まり、さらに埼玉県は着用率は9.2%と47都道府県の中でも低い着用率となっています。

中学生までは、ヘルメットを着用しているものの、高校生になると急激に着用率が低下し、大人の着用率も低いという傾向が見られます。高校生になると、髪型や容姿等を気にするようになり、ヘルメットがそれを乱す物として敬遠される傾向にあります。最も重要視しなければならないのは、自身の身の安全です。

子ども達は、我々大人の行動を見て成長していきます。大人が子ども達にヘルメット着用の範を示し、交通安全に関する意識付けを進めていくとともに、地域の輪で見守り、交通事故の無い社会を目指す活動に、ご協力をお願いいたします。

中学校 校長先生方からのメッセージ

羽生市立西中学校長 門井 五雄

「夢なき者に成功なし、成功する者に実行あり、実行する者に計画あり、計画ある者に理想あり、理想ある者に夢がある」これは、吉田松陰の言葉です。ぜひ、夢をもつて頑張ってください。

羽生市立南中学校長 堀越 成夫

「流汗悟道」りゅうあせかんどう 真実をつかむには自らが額に汗して行動する、という意味。コツコツと汗を流し、自分探しをしてみたいかがですか。

羽生市立東中学校長 福田 和己

「自分は自分の主人公 世界でただひとりだけ自分を創っていく責任者」 明るく元気に、そして逞しく人生を歩んでください。

「児童会長としてがんばったこと」

羽生市立羽生南小学校

6年 卯月 友莉

私は羽生南小学校の児童会長として、今年一年はより良い学校づくりに努めました。代表委員会の友達と相談して、様々な取組を行いました。あいさつ運動や正しい廊下歩行、無言清掃などについて放送で呼びかけたり、ポスターを作ったりして全校に広めました。

これらの取組を通して、自分の立場や役割に責任をもって行動することの大切さを学びました。また、「思いは伝わる」ことも実感できました。私のあいさつや呼びかけに、全校のみんなが応えてくれて、とても嬉しかったです。

私はこれから中学校へ進学します。小学校での経験を活かし、中学校でも責任感をもって行動していきます。

編集後記

【青少年健全育成に向けて】
☆防犯啓発活動

・羽生市役所

・一戸一灯運動

・あいさつ・見守り活動

☆参加協力

・羽生市防犯のまちづくり推進協議会

・家庭の日実施

・羽生市人権教育研修会

令和6年5月 定期総会



『えがお第22号』は、安心安全を守ってくださる方々、元気に頑張る小学生、子どもたちを応援してくださる先生方に執筆をお願いいたしました。

生活が便利になった反面、危険も伴います。子どもたちに居場所があり、「えがお」で過ごせるように願っています。

健全育成は、環境が大切です。経験を重ね、やがては自立できるまで、見守ってあげたいと思います。

これからも、青少年健全育成に地域の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

(木村)